

## 第9回日展

### 第1科（日本画）特選授賞理由

題名 <b>震れる</b>	作者名 <b>石崎誠和</b>	題名 <b>wall構成と蓄積－</b>	作者名 <b>田中達也</b>
授賞理由 鈍い金地にドローイングによって描かれる自然形象が微妙に流動し絡み合う。描かれるものと、描かざるものとの狭間に生成するものを見事に観る者に感得させる画面を現出している。	授賞理由 実存する風景なのだろうか。幾重にも重ねて生まれた色面のリズムが心地良い。きっと作者が現実と非現実の狭間を行き来して巡り合った世界なのだろう。画面の破綻が魅力に変わり海老色と緑青の対比が美しい。		
生生	今村市良	行方	林 真
授賞理由 作者の命を見つめる眼差と生きる姿勢が丹念に書き込まれ、艶気な筆致は柔らかくも強くじわりと生を問いかけてきます。	授賞理由 同一方向を見て並ぶマンドリルからはまるで現在の社会状況を表しているかの様な印象を受けた。表現としても箔や墨を効果的に使用し、魅力のある画面に仕立てている。		
共に泳ぐ。	鵜飼義丈	赫き渦	潘 星道
授賞理由 若冲や芦雪を想起させる古典美と、表面の複雑な処理によるモダンさが巧みに融合して、高い完成度を示す。装飾性と表現性をたたえつつ、巨鯨の生命力が封じられている。海の和合図と受け取った。赤の描線と微妙に照り映える黒が美しい。	授賞理由 岩絵具の赫を絶妙な階調で画面に刻んでいる。この赫には生命が宿っている。脈動感溢れ、深い抽象性の元に成り立つその作品からは魂の鼓動が聞こえる。		
白い時代	大西健太	赫赫	福本百恵
授賞理由 画面の上方に子供を配し動きのある構成で、丁寧に描きこんだ、若い人らしい独自の感性豊かな世界を描いた秀作です。	授賞理由 日本画の花鳥画という世界を従来の様式に捉われず原色を基調としながら多様な技法を用いて新しい表現に挑戦している。何より画面全体から伝わる鮮やかで艶やかな空間には引き込まれる魅力がある。		
刻廻る	城野奈英子	アクアの主	吉川咲江
授賞理由 ひまわりという誰もが描くモチーフを、作者の思い入れのある様々な植物と共に効果的に配置し、金属箔を使った斬新な構図と洗練された色彩感覚で、美しく造形的な作品にしている。	授賞理由 淡水魚と思われる魚が画面左方に大胆に描かれている。一瞬墨灰色の中なので見逃しそうになる。力強い作風の中に繊細きめ細やかな筆致が素晴らしい、好感の持てる良作となっている。		